瓦 Sanwa kawaraban 版

サンワ・リノテックがお届けするお得な記事満載の情報紙
きっとお役に立ちます。

サンワ・リノテックは映画「北の流氷」（仮題）に協賛、制作を応援します。

映画「北の流氷」（仮題とは）

「襟裳の奇跡」と言われ、プロジェクトX(NHK)でも取り上げられた実話をベースに、森林伐採で砂漠化した襟裳岬の緑化と取り組む漁師らの再生と共存、繁栄と継続を描いた作品です。

アイヌの人々が住み、緑豊かな森と漁業資源に恵まれていた襟裳岬地区は、明治以降に入植者が急増し、人々は強烈な寒さをしのぐため、燃料用に樹木を根まで伐採しました。その結果、山肌がむき出しとなり「砂漠」と化したのです。風が吹きすさび、山肌を削り、赤土は海に流れ込み、漁業も成り立たなくなりました。そこで、漁師たちは立ち上がります。

1950年代から70年間かけ、不毛の地と闘い、乗り越え、豊かな森と海を取り戻した壮大な再生のドラマに親子の絆やアイヌの言い伝えが絡み、どの世代にも受け入れられるエンターテーメント映画となる予定です。

メガホンは北海道浦河町出身の田中光敏監督が取り、タッグを組む脚本家は大河ドラマでも知られる小松江里子さん、このビックコンビに期待が高まります。

なお、北海道　えりも町・浦河町・様似町・広尾町の4町が北海道の活性化・観光誘致を目的に協力～小さな町の取り組みを北海道から全国へ、そして世界、未来へ伝えたい～と本映画の製作準備委員会立ち上げています。

田中監督をご存じですか？

北海道浦河町出身。大阪芸術大学卒業後、電通にて多くの有名 CM を演出。その後、2002年「化粧師」で映画監督デビュー。2003年「精霊流し」で第21回日本映画復興賞受賞。

「火天の城」2009年公開では新しい時代劇と高い評価を得ました。『利休にたずねよ』2013年公開ではモントリオール映画祭にて最優秀芸術貢献賞、日本アカデミー優秀作品賞はじめ多くの賞を受賞し、「サクラサク」2014年公開も海外で話題となり、「海難1890」2015年公開はトルコとの合作映画で日本アカデミー賞の優秀監督賞はじめ10部門にて優秀賞を獲得。「天外者」2020年公開ではキネマ旬報の名誉ある読者選出日本映画監督賞を獲得するなど、内外から注目を集める現在活躍中の映画監督です。

また、大阪芸術大学映像学科学科長の傍ら北海道浦河町の観光大使や和歌山県串本町のトルコ記念館名誉館長、越前あわら観光大使などにも就任しています。

田中監督が当社を訪問！

昨年12月16日、ひょんなご縁から、日本を代表する映画監督田中光敏さんが当社を訪れ、映画「北の流氷」の協賛を呼び掛けるプレゼンテーションを展開しました。

午前10時、同監督は当社の倉庫を見学、社員らと気軽に言葉を交わし、安部社長、純取締役（以下純さん）らとも名刺を交換したのち、佐川会長室にて同映画への熱い思いを語り始めます。この様子はリモートで関東営業所にも伝わりました。

まず、監督はこうして、映画の説明ができるご縁に感謝します、と丁寧に挨拶をされ、この映画の企画は北海道東部4町（前出）町長と監督が6年半前にスタートさせ、すでに260社に訪問、スポンサー依頼をしてきたらしく「打率は3割～4割」と笑わせ場を和ませた。～山が豊かになると、海が豊かになる、人が自然を守り、自然が人を守る～この普遍的なテーマを一貫して訴えてきたそうです。

当時、アイヌの人々は砂漠化した台地をみて「カムイは消えた」といっていましたが、何が起こっても諦めず植林を続ける漁師らを見て、カムイは必ず戻ってくる、と確信します。そこから、史実とファンタジーが織りなす壮大なドラマが展開されていくのです。

監督の話を聞き及ぶにつけ、会長室はため息と感動に包まれます。そこにいた私たちそれぞれが脳内スクリーンに映し出される奇跡の海を見ていました。

その「襟裳の奇跡」が緑化事業の大きな節目となり、海も豊かになっていきます。1952年75ｔだった魚介類の水揚げが2003年には3683ｔに増え、昆布漁も安定し、干場が東へ拡大していきました。

吉田拓郎や森進一に「襟裳の春は何もない」と歌われた地域ですが、入植から70年の現在、襟裳の子供たちは遠足には苗木を携えて山に入ります。緑の恵みの大きさ、失われた緑の回復の難しさは語り継がれ、山や海を守る行為は綿々と続いているのです。

監督は「自分たちの町を守るという偉業をあきらめず継続していく人々のエネルギーを伝えたい」そして「沿岸で奇跡を目撃した人々として社員の方全員、エキストラで出演願いたい」との提案に「北海道への社員旅行を検討しましょうか」と純さんは微笑みました。

当社が協賛するワケ

協賛に名乗りを上げている企業は住友林業を筆頭に建築・空気・水などの北海道の環境関連企業が主で、関西の企業は少ないのが現状です。

本映画のテーマは「人と自然との共生」であり、当社は作業員の安全と環境を守る、を信条として事業を展開してきたことと共通します。人の健康を蝕むアスベストとも向き合ってきました、また、昨今話題の SDGsの開発目標、持続可能な社会の実現とも合致します。また、佐川会長のライフワークである、世界の文化財の修復・保存活動も大きな引き金になっているのでしょう。

しかし、メセナとか社会貢献だとか人のためなどと、大上段に構えずとも、「人の過ちは人が償う、あたりまえでしょ。それに力添えするのも人として当然」と純さんに気負いはありせん。

監督の人との出会い、ご縁を感謝する姿勢と細やかな気配り、穏やかな人柄などに引かれたのも事実です。
監督の作品はどれも色使いが見事で、映像に引き込まれてきました。流氷が沖に去っていく海の色の変化をどのように表現するのか、見てみたい！ワクワク・どきどきの嬉しい期待が広がります。

安部社長は「当社の社是に：おもしろおかしく、ひとに笑顔を：とあります。みなさんに楽しく喜んでもらえるなら」と。映像に酔ったのち、エンドロールに当社名を発見し、社員らが喜んでくれたなら、協賛の目的は完結したのではないでしょうか。

本映画は今年2023年クランクイン、2024年全国公開に向けて制作は進んでいます。

編集後記

ことの起こりは、この映画の制作には協賛金の仕組みがある、と知ったことからだった。私は旅行が好きで、とりわけ北海道へは学生時代から社会人となり現在に至るまで幾度となく旅を重ねて来た。知床の紅葉に感動し、網走で見た流氷に壮大な自然に圧倒された。

さて、時代が訴求する SDGsのなかで、
（3）すべての人に健康と福祉を
（9）産業と技術革新の基盤を作ろう、
の2点は、当社の経営理念・ビジネスの基本方針である「環境問題」にかかわる持続可能な目標にあたる。

当社は社会問題となっているアスベスト・鉛など有害物質の除去時に作業員や近隣住民への健康被害をなくす活動と技術革新を図ってきた。現在も機械の効率化や安全性の提供に取り組んでいる。

それらと並行して、社会貢献をより具体的なかたちにできるテーマも探していた。そんな折、この映画と出会った。
学生ボランティアとして襟裳の番屋で寝起きし、へとへとになるまで昆布漁を手伝った2カ月、半世紀前の出来事が蘇った。

その襟裳岬で映画のテーマとなったエピソードがあったと聞き、奇縁を感じ協賛を思い立った。「人と自然の共生」は当社の企業活動の指針とも合致する。

私たちはめざします
現場と工場をより快適に、より安全にすることを
お客様と心をつなぎ世の中の役にたつことを
自らの夢、自らの幸福実現を

今回の田中光敏監督へのインタビューは実にエキサイティングだった。

秋にはじまる映画のクランクインに、エキストラ出演をかねて社員旅行の企画検討している。末尾になるが、協賛を受け入れてくれた安部社長・純取締役に感謝したい。

サンワ・リノテック㈱取締役会長
佐川　博敏

■発行

作業現場の快適のために――
レンタル、販売から工事施工まで
Sanwa Renotech
サンワ・リノテック株式会社
https://sanwa-renotech.com

アスベスト サンワ で検索できます
〒551-0033
大阪市大正区北恩加島１丁目17番４号
TEL06(6551)0024　FAX06(6554)1057
関東営業所　〒143-0021 東京都大田区北馬込 2-43-5
TEL 03(6410)7395　FAX 03(6410)7396